

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.23

ドキュメンテーション



ノート PC の返却に集まった 10 期生の皆さん

ドキュメンテーション学科 10 期生の卒業を祝して！

10 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。鶴見大学で過ごした時間は、如何でしたか。学業に興味に充実した学生生活を過ごしたことと思います。

皆さんが在学された 4 年間で、ドキュメンテーション学科では社会貢献活動や国際交流活動が大きく前進しました。

社会貢献活動では、特別実習Ⅰの授業のインターンシップで企業や図書館で仕事や組織の仕組みを学びました。今年度の授業では、地元の横浜市や川崎市の書店を学生が考えた多様な視点から考察し、例えば個人書店と大手書店の立地の差、品揃えや広告、顧客層の違い等の経営戦略を実地調査しました。その授業成果を書店や図書館等、図書に関係する業界に広く公開するため、パシフィコ横浜で開催された図書館総合展で発表しました。また、鶴見区が主催したビブリオバトルや鶴見図書館の読み聞かせのボランティアにも多くの学生が参加しました。

国際交流活動では、北京大学、中山大學、世新大学の

国際インターンシップの学生が本学科の学生と合同で授業を受けました。英語での授業となりましたが、各国の図書館事情など初めて聴くことばかりで、皆さん真剣に学んでいました。また、今年度は本学科が主催した国際講演会が開催されました。講師にお招きしたのはノースカロライナ大学チャペルヒル校図書館情報学科長・教授のゲーリー・マーキオニー二博士で、情報探索戦略についてご講演いただきました。

皆さんが卒業後に歩む社会はグローバルな社会です。多様な価値観を尊重し、相互に協力し合うことの重要性を学ばれたことでしょう。本学科で積まれた豊富な経験を生かし、社会に貢献し世界で活躍できる人になってください。在学生、卒業生、そして教職員一同は、ドキュメンテーション学科が、さらに躍進していけるよう頑張っていきたいと思います。

ドキュメンテーション学科 主任 角田 裕之

📖 角田裕之研究室

- 上野 優太 ライトノベルの文章タイトル化傾向の考察
内野 歩 図書館における手話の有用性についての研究 — 一手話言語条例による図書館サービスの変化—
大関 南 神奈川県内公立図書館の図書館システムにおける効率的なマンガの検索方法の調査・提案
加瀬 裕 鶴見大学生における電子書籍利用の実態及び電子書籍の将来展望の研究
木村 優里 SNS で情報発信をしている県立図書館の使用状況と課題
佐々木美翔 図書館ランキングのトップ 20 に入るための貸出利用の比較・改善法の考察
土屋 博紀 日本における公共貸与権の必要性についての考察
津村 星斗 芥川賞、直木賞、本屋大賞の受賞タイトルにおける文節の調査分析
戸田 義大 鶴見大学図書館におけるライトノベル・マンガの必要性についての研究
永野 慎平 鶴見大学図書館所蔵資料における「図書館映画」から受ける印象の分類と考察
濱田 菜那 レファレンス共同データベースにおける回答プロセスの分析

📖 河西由美子研究室

- 川和田 渉 アニメ聖地巡礼による地域活性化に関する研究
菊池 海杜 神奈川県内の複合施設内図書館に関する研究
楠井優太郎 公共図書館の高齢者サービスに関する研究 — 湘南地域の事例について—
佐々木文子 神奈川県内公立図書館のパスファインダーに関する研究
杉山 龍輝 メディアリテラシー教育の評価に関する研究
多田 祐輔 大学図書館における特集展示の効果に関する研究
中原 大輔 公立図書館におけるユニバーサルデザイン絵本の活用に関する研究
松井 洋輔 大学生の絵本とのかかわりに関する調査研究 — 鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科を対象に—
山本 大成 野球の指導方法の日米比較研究

📖 大矢一志研究室

- 大槻 賢史 RaspberryPi を使った行動判定システムの試作 —あるく、とぶ、ころぶ、のぼりおり、ひねるの判定—
大畑 壘 RaspberryPi を使った環境データのセンシング実験 —トマトのハウス栽培で使われる環境制御システムに向けて—

📖 元木章博研究室

- 伊東 那月 点字学習支援を目的としたスマートフォンアプリの開発と評価
内海 渚 CTF と作問学習を活用したネットワーク技術習得のための授業実践
大馬 天香 大学図書館における延滞抑止策として効果的な罰則の調査と提案
齊藤真姫子 国立大学が提供する交通アクセスに関する情報の現状とニーズ
坂爪 翔 図書館サービス特論における視覚障害に関する授業内容改善のための予備調査
中村 匡志 ネット炎上疑似体験教材の開発と評価
林 紗耶 打点入力を活用した点字学習支援システムの開発と評価
堀 恵理 公共交通機関が提供する広報誌の情報アクセシビリティに関する現状と課題
柳谷 遥 大学生の批判的思考力を養うための教材開発と評価 —「嘘ニュース」を用いた授業実践—
渡邊あすか 図書館サービス特論における障害者サービスに関する授業内容の改善



田辺良則研究室

- 大槻 充史 公共図書館におけるウェブ版 OPAC の機能比較調査
山口 亜朗 MySQL を用いたバレーに関するデータベースについて
遠藤 千嘉 DB とブラウザを利用した教室におけるコミュニケーション支援ツール
古谷田仁美 音楽教育におけるソフトウェア活用方法の提案
島田 大輔 学校教育における ICT 機器の活用に関する研究動向の調査
大塚 広平 インターネット上におけるニュースサイトの比較・調査
柴田 悟司 機械学習を用いたくずし字文字認識の試み
堀之内勇亮 日本のプロ野球チームのデータベース構築

久保木秀夫研究室

- 近江慎之佑 源氏物語「葵」巻の異文とその解釈に関する研究
長内 宏尚 オリンピックの歴史に関する文献の調査研究
押田 英之 古典籍の画像に関するデータベースの調査・研究
片岡 なぎ 鶴見大学図書館蔵古筆手鑑の鑑定資料に関する調査研究
川端 優希 原本資料における鳥類の表象に関する研究 —大和絵を中心とする—
中村祥一郎 鶴見大学図書館蔵古筆手鑑に基づくツレの認定と研究
中村 玲菜 源氏物語の絵画化に関する研究
永久 良徳 文献に基づく野球の指導方法の調査研究
野村 真嵩 陽明文庫の古図録類に関する調査研究
山内 直紀 大坂の陣図屏風についての調査研究
諸熊未来也 電子書籍の定着と共存に関する研究

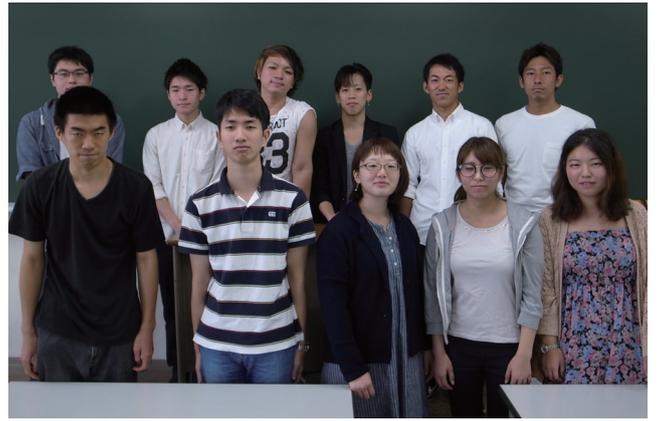
2016 年度 卒業論文題目

伊倉史人研究室

- 簡 孝介 鶴見の田祭りについての研究と考察
今井 綾 江戸時代の美容
—『女子愛敬』都風俗化粧伝』を中心として—
今井 綾香 神奈川県浦島伝説について
大津 聖人 野球規則の変遷
大塚 陽海 今昔文庫本表紙考
大橋 諒介 幕末明治期刊行の昔話の挿し絵研究
奥秋 佳典 百人一首と犬百人一首の比較研究
勝又 理砂 酒吞童子の図像研究
齋藤 駿涼 江の島を中心とした古地図の研究
竹内 友里 分福茶釜 —動物報恩譚の視点から—
波平 和子 『和歌食物本草』の版種について
八角菜実季 異類婚姻譚の研究 —羽衣伝説について—
濱田 千尋 明治期の国語辞書についての考察
—『言海』と『和英語林集成』を中心に—変化

久保木秀夫研究室

私は図書館学コースに所属していました。しかしなぜ書誌学コースの久保木ゼミに所属したのかというと、くずし字を通して書誌学に関心を持ち、「古筆切」と呼ばれる資料について卒業論文を書きたいという明確な目的があったのです。ゼミに所属する前から書誌学の知識が備わっていたわけではありませんでした。しかしそんな私でも卒業論文を執筆し終えることができたのは、2週間に1回にある進捗状況の報告会で、直接先生から指導して頂けたからです。もちろん報告会の場以外でも、快く相談に応じてもらえたので、自分のモチベーションにも繋がりました。卒業論文と聞くと少し堅苦しいイメージを持つかもしれませんが、自主的、計画的に進めることができれば、問題ありません。コツコツ地道に頑張ってください。 [中村祥一朗]



河西由美子研究室

河西研究室では、図書館学に関わる論文を執筆する学生が多く集まります。また、アニメの聖地巡礼に関する事など、自由なテーマで論文を執筆する学生もいます。そのどちらも、卒論としてどこを目指すべきか、先生からアドバイスを頂くことができます。そして、題目決定後は基本的に自分のペースで論文の執筆を行うことができます。ですがその分、自分を奮い立たせて執筆作業を行わなければいけません。それができないのならば、論文の進捗等に支障をきたし、後々大きな悔いを残すこととなります。逆に言えば、それができれば自身の成長にとって大きなプラスとなるはずです。後輩の皆さんにもそのことを肝に銘じて、取り組んでほしいと思っています。 [松井洋輔]

2016年度 研究室紹介

田辺良則研究室

田辺研究室ではデータベース、プログラミングを中心とした情報学コースの研究を専門にしています。ゼミ生は個人個人で異なる研究をしていますが、週に一度、研究の進捗状況を他のゼミ生の前で報告することで発表に慣れ、互いに意見を出し合い、共通する課題があれば協力して取り組める環境を構築できました。また、先生との個人面談では、論文の書き方から資料の集め方、海外論文の翻訳等まで丁寧に指導して頂けたので、就職活動と併行して卒業論文を進めることができ、とても心強かったです。夏合宿では卒業研究発表会の予行演習を行いつつも、ゼミ内での親睦を深めることができ、授業の無い夏季休暇期間中に中弛みせずにご過せたとお思います。このゼミでの1年間で「プレゼンテーション力」と「報連相の習慣」という大学卒業後にも生かせる能力を磨くことが出来ました。 [柴田悟司]



伊倉史人研究室

少しずつ進めていくというゼミの方針は私には合っていた。その週の担当者が調べてきたことを発表する時、各自必ず質問をする決まりだったけれど、難しい用語の意味を訊くだけで、今考えてみると勿体なかったなと思う。他の人に発表を聞いてもらおうと、思いもしなかったところを質問されることもあり、自分だけで完結させるのではなく、人に見てもらおう機会の重要性を感じた。卒論の進むスピードはそれぞれだが、先生は一人ひとりに合わせたアドバイスをしてくれた。卒論を進めるにあたって一番大事なことは、実際に使うかどうかは考えず、たくさん資料を集めることだと思った。[竹内友里]



大矢一志研究室

卒業論文は自ら率先してテーマについて調査、考察、制作、執筆などをしなければなりません。元々テーマについて興味はあったものの、知識が乏しく、いちから調査し学ぶ必要がありました。また自分が理解したことを、専門知識のない人や初めて知る人に、どのようにしたら理解してもらえるものかを考えて、工夫しながら書くことが必要でした。こういったことを学ぶことができたことが嬉しく、これらは人生にとって役立つことで、物事の基本であると思いました。後輩のみなさんは大学生活の集大成ともいえる卒業論文に後悔がないよう、楽しみながらも作成してください。[大槻賢史]



元木章博研究室

元木研究室では、障害者サービスや情報に関する幅広いテーマを卒業論文として扱い、調査やシステム開発、授業実践を行います。今年度は、ネット炎上疑似体験教材の開発や広報誌の情報アクセシビリティの調査など様々な研究が行われました。卒業論文を進めるために先生と何度もミーティングを行い、同期の人とも意見を出し合いながら、完成を目指していきます。また、縦横の人とのつながりを大切にしているため、同期だけでなく、多くのOBOGの先輩方や下級生と交流することができます。1年間の活動を通して、スケジュール管理やマナーなどを身に付けることができるので、自分自身の成長にも繋がります。

[渡邊あすか]

角田裕之研究室

角田研究室では、図書館学に関することを中心に、自分の好きな物事や興味のある物事について、今まで学んできたことを駆使して研究していくのが特徴です。執筆にあたって分からないことがあれば、角田先生が親身に相談に乗ってくださるので、自分の研究にとことん打ち込みたい人には向いている研究室だと思います。演習中では、先生の朗らかな人柄を中心に、自分の研究に関する意見を求めたり、世間話で花を咲かせたりと、明るく笑いの絶えない空間となっています。夏には河西研究室と合同でゼミ合宿が行われ、卒業論文の中間発表会では様々な視点からの意見を頂き、また、各ゼミのメンバー間で親睦を深めることも出来ました。

[大関南]

資格取得

検索技術者検定 3 級に合格して

石原 夏実

私は、2年生後期の情報サービス演習Ⅱの検索の授業で検定について知り、司書の業務に役立つ資格であると知り受験を決めました。検定試験は年1回11月下旬に行われるので、3年生の10月から受験準備のために集中して勉強しました。指定のテキストを使って通学の電車や授業の合間に少しずつ勉強し、分からないことは先生に聞きました。ネット上で公開されている過去問題も解きました。受験してわかったことはテキストの細かいところまで出題されることです。受験を通して大学の勉強の復習や予習にもなるので、ドキュメンテーション学科の皆さんにはお勧めの資格だと思います。

学生の声

インターンシップ

自分を成長させる機会

角ヶ谷 晴香

昨年の8月、私は日本ミャンマー支援機構株式会社のインターンシップに3日間、参加しました。

初日は営業を企画してから実際に営業を行い、2日目は英字新聞記事を日本語へ翻訳し、3日目は大使館へ講演を聴きに行きました。

私は今回、普段の大学生活では学ぶことのできないことを多く学びました。例えば、営業の仕方や心得、社会人同士のコミュニケーションの回り方等です。インターンシップは正社員と同じ責任で仕事を経験できます。また、アルバイトとは違う視点から企業を見ることができる良い機会でもあります。

このような機会は多くの知識を吸収し、自分自身をより成長させることができます。そのため私はこれからも積極的に参加していきたいと考えています。

意識を変える貴重な機会

藤田 翔生

私は夏休みの期間中に、不動産業界の主に賃貸の仲介業を行っている株式会社ミニミニのインターンシップに参加しました。5日間の日程で、初日と最終日は本社、中3日は支店で研修を行いました。

初日には、不動産業のことを何も知らない人でもわかりやすい説明で、不動産業とはどのような仕事なのか、などを教えていただきました。そのため、2日目からの支店研修にスムーズに入ることができました。

支店研修で一番感じたことは、社員の方のビジネスマナーやお客様への気遣いが徹底していることです。私は普段アルバイトで接客業をしていることもあり、言葉遣いの面などには自信がありましたが、社員の方の電話応対や店舗でのお客様対応を間近で見て、自分にはまだビジネスマナーが身につけていないと思いました。それと同時に、自分と社員の方のこの差が、アルバイトと正社員の人との大きな違いであることを強く感じました。

インターンシップは、アルバイトとはまた違った視点で、社会人とは何なのかを見ることができ、また考えることができる貴重なチャンスだと思います。就職活動の始まる4年生になる前に、一度でもインターンシップを受けることで、自分の意識が変わると思うので、ぜひインターンシップに参加してほしいです。

コース選択

図書館学コース 居心地の良い図書館を追及したい

宇佐見 千映子

私は、図書館学コースに進もうと考えています。

入学前から図書館学コースに興味を持っていました。読書が大好きで、ただ楽しいだけではなく、人生に必要なことを教えてくれる本の魅力を、たくさんの人に伝えるために司書になりたいと考えるようになりました。

「ドキュメント処理演習Ⅱ」では、目録の取り方を学びました。実際に目録を取りながら資料種別ごとの違いを確認していききました。標題紙や奥付から読み取れる情報を追込み式で記入していくのはとても楽しかったです。ピリオドやカンマの付け忘れを見落としてしまうことが多く大変でしたが、その分一人でできたときの達成感を大きく感じました。

鶴見大学に入学し2年が経ち、予習・復習を満足に行えなかったと反省しています。やらなければならないと常に思ってはいましたが、日常生活に追われて思うように学習をすることができませんでした。

これからの大学生活では、利用者にとって居心地の良い図書館の姿とはどういうものなのか、学びたいと考えています。司書として働ける時がきたら、大学で学んだことを活かして利用者に笑顔になってもらいたいと思っています。例えば、多くの図書館で閲覧席同士の距離が近いので、もう少しゆったり座ることができたらいいのかなと思います。

図書館学コースに進んで、これからの司書には何が必要なのか、利用者にとって居心地の良い図書館の姿とはどういうものなのか、学んでいきたいです。

情報学コース 難しくもやりがいのある情報学

竹迫 優花

私は、3年次に情報学コースを選択しようと考えている。

そもそも私は、司書教諭になりたくてこの鶴見大学に入学した。そのための情報教諭の教員免許を取るために、情報学コースに進もうと思ったのだ。

このような、積極的な理由がコース選択のきっかけだったが、2年次に情報学の授業を多く受けると、情報学自体に興味が出てきた。JavaScriptを用いて、動きのあるwebページを作る「ネットワーク演習Ⅰ」や、Arduinoというマイクロコンピュータで、簡易な電子工作物を動かす「プログラミング概論」など、自分でプログラムやスクリプトを書いて何かを動かすという授業が多く、難しいがやりがいがあった。特に自分の思った通りのものを作り上げ、思った通りの挙動をした時は、言い表せないような達成感を得られた。

来年度、情報学コースに進んだら、より高度なプログラミングにも挑戦してみたいと考えている。データベースの扱いなど、不得手なこともあるが、どれもおろそかにせず努力したい。

書誌学コース 本の歴史を学びたい

福本 渚

私は現在、書誌学コースを選ぼうと考えている。

古典籍はとても魅力的だ。読み解いて行けば行くほど昔の生活や文化を知ることができる。現代では考えられない様な驚きや、現代でも変わらない伝統を学び、それらを理解した上で本に携わる仕事に就きたい。

本という物に接するには、本が生まれた歴史にとどまらず、紙や文字といった本の形成に重要なものから学ぶ必要があるだろう。

今、私たちが当たり前のように手にすることができる本は、いつから「当たり前」になったのだろうか。昔はくずし字で書かれていたものが、いつから私たちが読み書きしている書体に変化したのだろうか、疑問はいくつも出てくる。

現代の私たちは過去の人々がいたから生きて、文明を発展させている。本が大好きだからこそ、私は本の歴史を学びたい。それが、本に接するための最低限の"自分ルール"だ。

見学会 — 東京国立博物館：2017年2月7日

入学以来頑張ってきた1年生へのご褒美に(?)上野の東京国立博物館見学会に行ってきました。仏像、武具、絵画など、多くの貴重な美術品・文化財の中に、書誌学コースの授業にもかかわる古典籍も陳列されていました。1年生の皆さんは、どんな展示品に魅かれたでしょうか？

■東京国立博物館に来るのは2回目で、前回よりもさらに館内の雰囲気グレードアップしているように見えました。私が今まで知らずにいたアイヌ文化の衣食住や仏教関連のことについて見学することができたので良かったです。今後の授業でも学ぶであろうくずし字の特色を見ることができたので良い経験にもなりました。今日のことを忘れずに、学べていたらと思います。 [加治美香]

■初めて東京国立博物館に行きました。様々なものが展示されていて、どれも見ていてとても面白かったです。どの展示品も昔の物とは思えないような、とても繊細できれいなものでした。特に刀や袱紗などは、とても細かく装飾が施されていました。一つの物を長い時間みても飽きないようなものばかりでした。昔の人たちがどのようにそれを作り上げたのかも気になりました。そして、袱紗など、色鮮やかなものも多く驚きました。どの展示品も目を引くものばかりでした。建物自体もとてもきれいで、ここにいるだけで楽しかったです。 [山本千菜美]

■仏像や武具、刀や着物など、様々なものを見たが、やはり仏像の迫力は実際に見なければわからないものがあると感じた。仏像以外でも、着物の刺繍の細かさはとても美しく、様々な方法で縫い込まれ、模様となっている作品は、どれも引き込まれるように見てしまった。スマホなどで検索をすれば画像はすぐに出てくるが、やはり実際に自分の目で見なければわからないものがあると感じた。 [佐藤優梨子]

■教科書や資料集などでしか見たことのないようなものは、実物を見てみるととても迫力がありました。銅像や硯箱の模様などがとても精密に作られていて、昔からの技術力の高さを実感しました。あまり楽しいものではないと思っていましたが、興味深い物が多くあり楽しかったです。 [田代大輝]

■私は初めて東京国立博物館を訪れました。特に印象に残っているのは刀剣の展示品です。テレビや写真で見たことがあり、一度は生で見てみたいと思っていたので、良い機会でした。刀剣そのものや、鐔、柄の細部のつくりを実際に見て、予想以上に美しく、衝撃を受けました。鶴丸凶鐔という鐔も印象に残っています。刃文には注目していたのですが、鐔というのはきちんとみたことがなかったので、今日見れてよかったです。彫り込みの模様は目を奪われるようでした。 [丸山葵]

■2階を中心に見学したが、様々なジャンルのものが並んでいるという印象を持った。一番興味をひかれたのは、保存と修復の展示である。中でも刀についての展示に興味をひかれた。はじめはゴツゴツしている刃の表面が何度か研ぐことで波を打ち、顔がわかるまで磨かれるのが不思議に思った。また保存の方法として棚の下に害虫を取るための装置を置いているのが、普通の家とも通じる箇所であり、親近感を持ってしまった。前回もそうだが、外国人の方も多くいたことに驚きと感動を持ちました。 [及川彩華]

*鶴見大学文学部は、東京国立博物館の「キャンパスメンバーズ」に加入していますので、本学科学生の皆さんは無料で(!)、しかも何度でも(!!)「総合文化展」を観覧することができます(入館時に学生証が必要となります。特別展も割引で入場できます)。「総合文化展」は定期的に展示内容を変えていますので、ぜひ繰り返し足を運んで、本物ならではの魅力、迫力を堪能してみてください。

研究活動

国際会議 ICPE 2016 ポスターセッションに参加

柴田 悟司・坂爪 翔

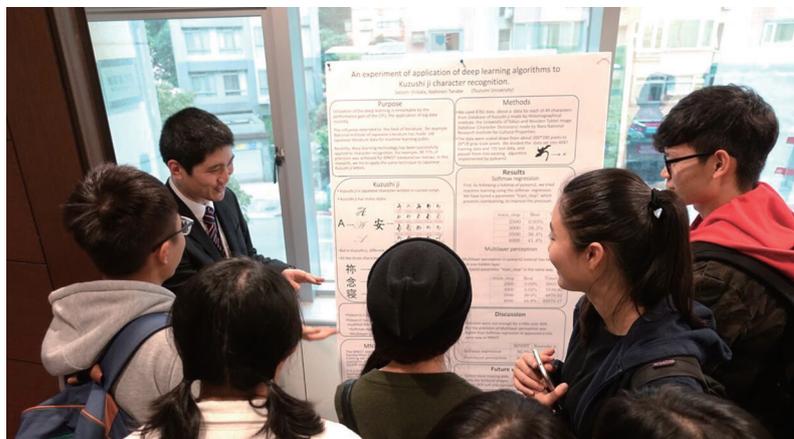
昨年12月15～16日に台湾・世新大学で行われた国際会議 ICPE2016に参加しました。ICPE(情報資本・資産・倫理に関する国際会議)は、鶴見大学の多くの姉妹校の研究者・学生が参加する会議で、毎年行われています。今回は、会場校の世新大学のほか、中国の北京大学、中山大学、東北師範大学、米国のフロリダサウス大学などからの参加がありました。ドキュメンテーション学科と、学科内の寄付講座からは、長塚先生、田辺先生と、4年生の私たち2名が参加しました。

私たちは、卒業研究の内容を、ポスターセッションで発表しました。研究内容を1枚のポスターにまとめ、展示するのですが、他大学の教員や学生の人たちに、研究内容を英語で説明するのは想像以上に難しいものでした。

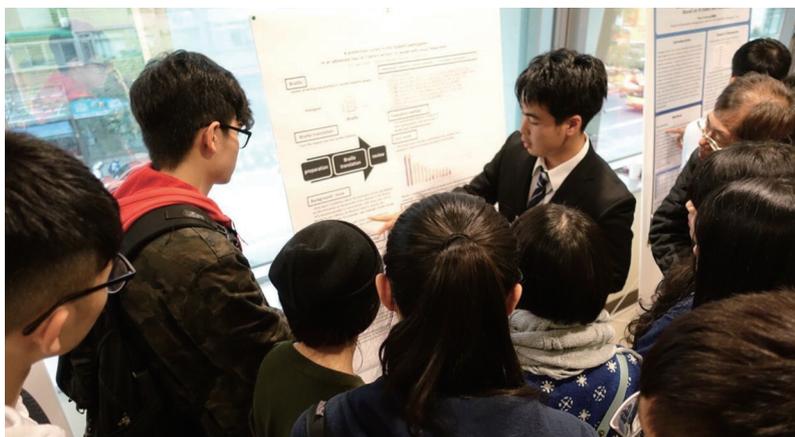
予想していなかった質問や、素朴な疑問などに上手く返せず悔しい思いもしましたが、審査員である各国の先生方や、同じポスターセッションの参加者である中山大学の大学院生の皆さんにも助けられ、最終日に表彰を受けた時には、誇らしい気持ちになりました。発表した学生や、現地でサポートしてくれた学生と仲良くなり、お互いの研究について話し合ったり、一緒に食事やショッピングをしたりしながら、交流を深めることもできました。貴重な経験になったと思います。



左：坂爪君 右：柴田君



ポスターセッション中の柴田君



ポスターセッション中の坂爪君



表彰式にて

授業・自主ゼミ紹介

【特別実習Ⅰ】

〈書店をめぐるフィールドワーク〉と図書館総合展への参加



本年度の専門選択科目「特別実習Ⅰ」は、受講生各自が、横浜市を中心とした特定の地域内にある書店を網羅的に訪問し、地域における書店の特質を分析するという内容としました。いわば書店のフィールドワークです。規模や運営方法も多様な書店が同一地域に展開している様子を实地に観察することで、本の流通について、地域空間からの分析や、そこからの棚分析などをもとに、書店について改めて考える授業となりました。

またこの「特別実習Ⅰ」の成果に基づき、ドキュメンテーション学科としては初めて、日本最大級の図書館関連展示会「図書館総合展」(例年パシフィコ横浜で開催されます)において、ポスター発表を行いました。学生たちは、自らの発表のみならず、図書館総合展に集う出展者の多様さにも大きな刺激を受けたようです。

ちなみに2016年度、鶴見大学からは、この「特別実習Ⅰ」に加えて、学生主体の「図書館研究会」、紀伊國屋書店寄附講座という、併せて計3件のポスター発表に参加しました。

【情報学セミナー】

自主ゼミ「情報学セミナー」に参加して



私たちは、田辺先生のご指導のもと、(ほぼ)毎週水曜日の18時から、自主ゼミ「情報学セミナー」で、プログラムを作る際の考え方について学んでいます。

セミナーは、毎回参加者の1人が教科書の1章分を読み、他の参加者に説明するという輪読形式で進みます。今は、平山尚「プログラムはこうして作られる」(秀和システム、2013)を読んでいます。

人数は5名と、現在のところは少なめですが、その分発表者と参加者の距離が近いため、説明の中で分からない点をすぐに質問し、理解を深めることができます。また、発表者が考えても分からなかった点は参加者全員で考え、話し合っています。

参加者だけでは分からない問題は、田辺先生の分かりやすい解説を頂戴することができるため、疑問点をその日のうちに解決することができます。自分が理解していると思っても、他の参加者に説明しようとすると言明できないこともあり、理解の甘さを実感することもしばしばです。

プログラムを作る上で役に立つ、様々な考え方を学ぶことができるセミナーです。

[星野ゆう子]

No.13

【チェスタービーティー図書館〔ダブリン、アイルランド〕】

Chester Beatty Library, Dublin, Ireland

ダブリンの観光名所ダブリン城の真裏の公園に隣接して、書誌学専門の博物館チェスタービーティー図書館がある。ここは知る人ぞ知る有名な図書館であるそうなのだが、専門家でないわたしは、ちょうど読みかけの本に載っていた板表紙の装丁方法が、この図書館の展示品を使い説明されていたので、ついでにという軽い気持ちで訪問した。ところがここは、とんでもない図書館であった。

展示室は2Fと3Fにあり、2Fは装丁を中心とした本の歴史と地域の違いを紹介するフロアで、3Fはキリスト教、イスラム教、仏教の書物が紹介されているフロアになっている。書誌学の博物館の例にならい、照明は全体的にとっても暗い。もちろん写真撮影は禁止されている。2Fでは、写本時代の装丁からグーテンベルク以降の版本の中でも美しい装丁の本が紹介され、それらの作り方が学べるようになっている。展示品はどれも手の込んだ美しいもので、本しか並んでいないのだけれども、見ていて飽きない。世の中にはいろいろな装丁があるもので、人間の発想は自由で多様であることが、本の展示から分かるようになっている。



チェスタービーティー図書館



吹き抜けのフロア

2Fの展示でも十分に満足度は高いのだが、さらに3Fの展示は圧巻である。キリスト教のコーナーでは、ビーディコレクションと呼ばれる一連のパピルスによる聖書が展示されている。美しいとはいえないのかもしれないが、神々しく、わたしには美しく見えた。写本類は相変わらずどれも美しい。そして、キリスト教と同じ空間量を使い、イスラム教の書物が展示されていて、これがまた美しい。書物の美しさの前には全てが公平に扱われているところも素晴らしい。仏教のコーナーには、書誌学の博物館には必須の展示と思われる百万塔陀羅尼も、ちゃんと所蔵・展示されていた。ただ、その近くに展示されていた仏像は、正直に言えばあまり美しくなく、他のコレクションの美しさと比べると、アジア人としてちょっと残念な気持ちになった。

ガイドブックによれば、ヨーロッパの博物館を対象とした展示の賞を獲得しているらしいが、納得である。そして入館料はかからない。文学を大切にしているアイルランドならではのだろうか。ダブリンを訪れたら、ここは外さない方がよい。
(大矢一志)

アクセス：ダブリン城の真裏。

開館時間：月曜 - 金曜 :10:00-17:30 (但し 10月-4月は月曜が休館) 土曜 :11:00-17:30、日曜 :13:00-17:00 入場無料

アドレス：Chester Beatty Library, Dublin Castle, Dublin 2, Ireland <http://www.cbl.ie/>

学科・学会活動報告

2016年8月～2017年3月

■ 9月23日・10月25日 学内合同企業説明会

それぞれ約10～20社にご来学いただきました。授業が重なっている学生もいましたが、4年生が説明を受けていました。下級生にも参加者がいました。

■ 10月24日 「特別実習Ⅰ」報告会開催

履修学生7名による書店や図書館に関する実地調査報告が行われました。教職員だけでなく、他の学生の参加もあり、履修学生は発表用ポスターの前で、多くの参加者たちへの説明と議論を行っていました。

■ 12月15日・16日 ICPE2016で研究発表

4年生2名と教員2名が、台湾・世新大学で開催されたICPE2016で研究発表を行いました。4年生は各自の卒業研究をポスターで紹介しました。

■ 1月21日 国際講演会を開催

米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校・図書館情報学科長・教授のGary Marchionin先生をお招きし「学習プロセスとしての情報探索 Information Seeking as a Learning Process」と題したご講演をいただきました。本学科学生対象の講義を一般公開し、デジタルメディア時代における情報探索の戦略や方法について貴重な学びを学内外の参加者で共有することができました。

■ 2月1日 卒業論文口述試問

学生最後の集大成として4年生が卒業論文に取り組みました。そして、最後の試験として、自分の卒業論文について、指導教員との口述試問に臨みました。

■ 2月7日 東京国立博物館見学会

国内外の貴重な美術品等コレクションをまとめて見ることが出来る東京国立博物館へ行って来ました。特別



東京国立博物館にて

展「春日大社 千年の至宝」が開催中で、そちらに足を伸ばした人もいました。

■ 2月20日 貸与ノートPC返却

今まで4年間お世話になったノートPCを返却する手続きを10期生全員で行いました。

■ 2月23日～3月2日 台湾でインターンシップ

本年度で4回目となる授業「特別実習Ⅱ（国際インターンシップ）」に、ドキュメンテーション学科の6名が参加しました。

■ 3月7日 国際インターンシップ報告会

台湾でのインターンシップを終えた6名の学生が成果報告を行いました。先進的な技術を導入した図書館を見学したり、世新大学の学生と交流したり、充実した9日間を過ごしてきました。

■ 3月14日 平成28年度卒業式

ドキュメンテーション学科10期生の皆さんが卒業しました。卒業式後、学科別に教室へ移動し、角田主任教授から一人ひとりに学位記が手渡されました。

※ 活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第23号をお届けします。
- ドキュメンテーション学科10期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。
- 特別実習Ⅰでは横浜市の書店を実地踏査しました。
- 恒例の見学会では、「キャンパスメンバーズ」制度を利用して東京国立博物館に行きました。

ドキュメンテーション 第23号
平成29(2017)年3月14日(火)
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3
☎045(581)1001 発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>